

平成26年3月期第2四半期 連結決算

補足説明資料

2013/11/13

AISAN TECHNOLOGY CO.,LTD



平成26年3月期第2四半期 業績ハイライト

売上高：887百万円

(前年同期比35.1%増)

営業利益：66百万円

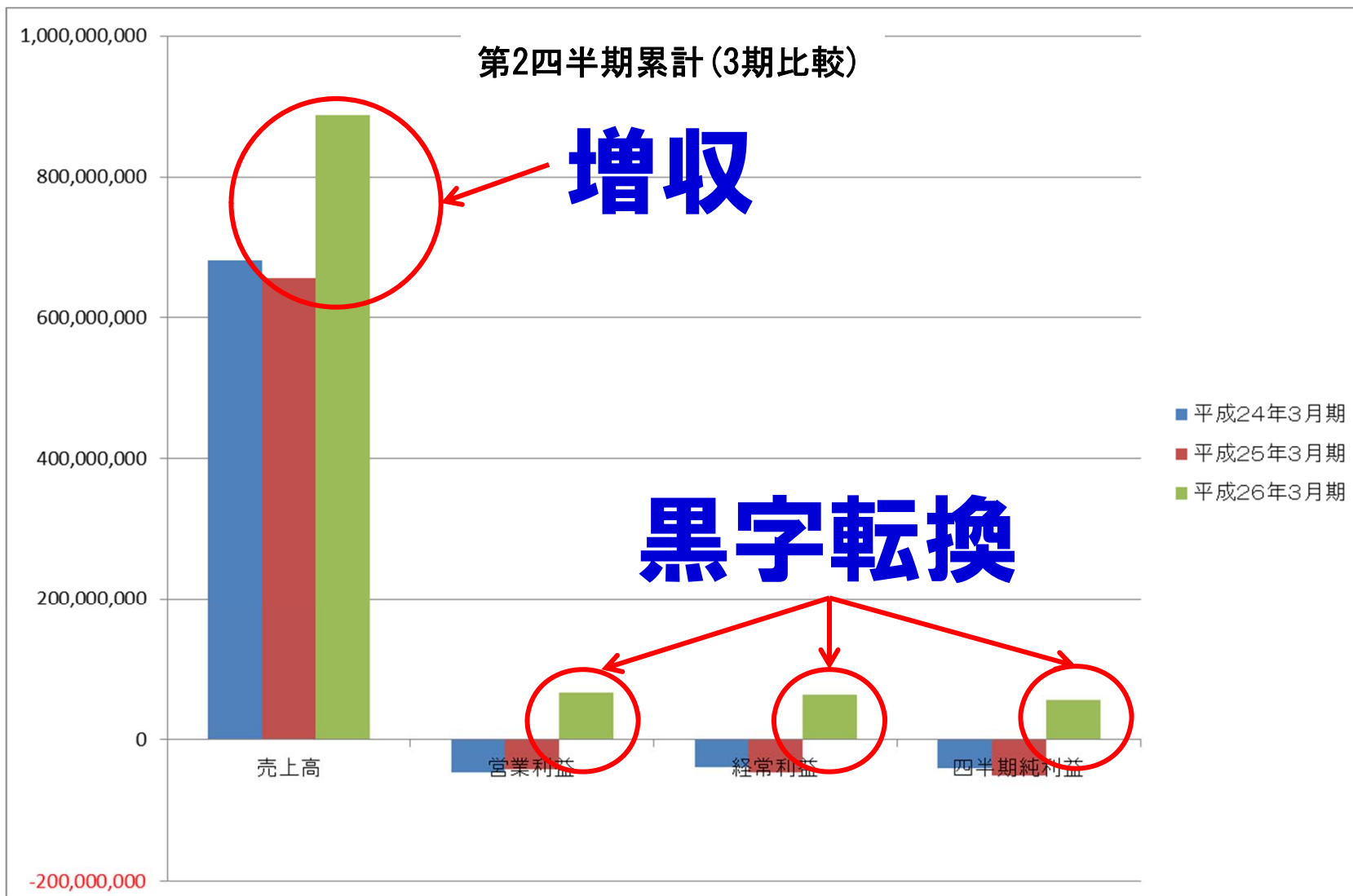
(前年同期41百万円の営業損失)

四半期純利益：56百万円

(前年同期50百万円の四半期純損失)

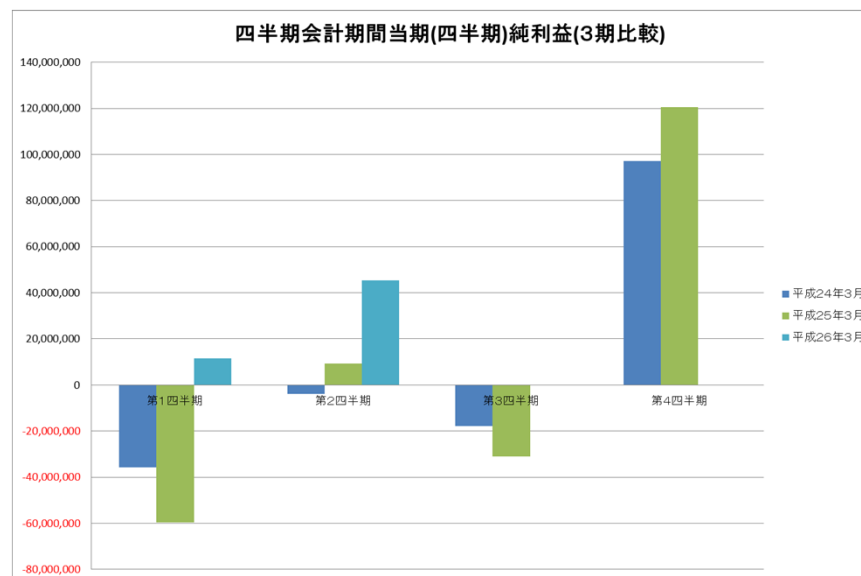
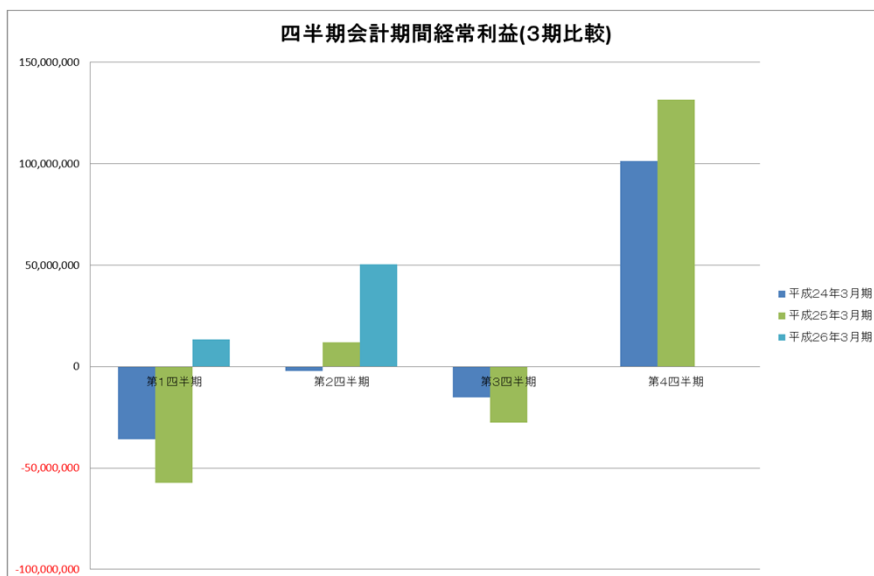
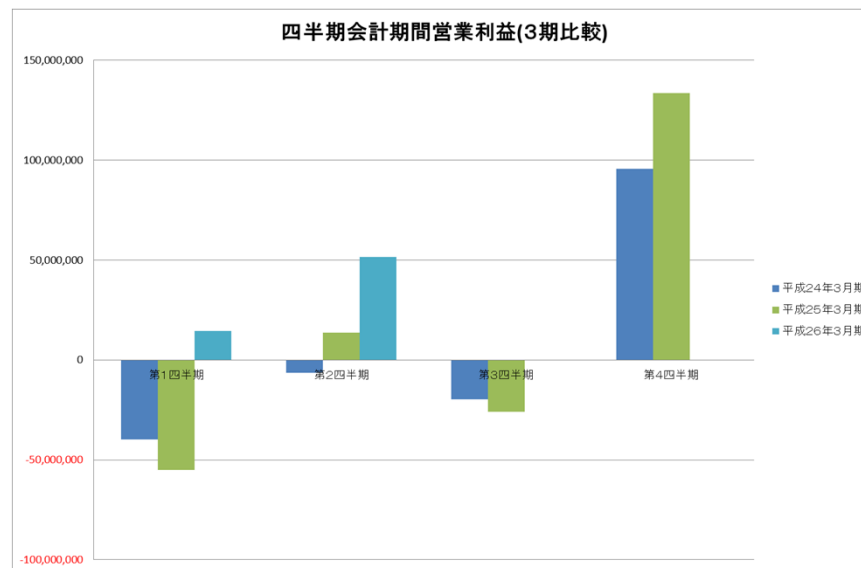
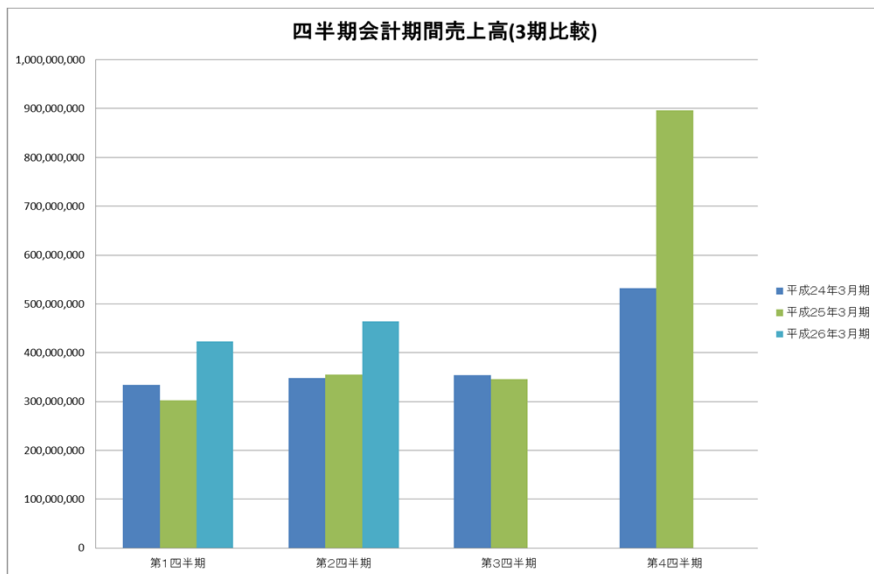


補足説明資料②





補足説明資料③





補足説明資料④

1. 売上高、利益等前年同期実績を大きく上回った理由は

事業カテゴリ別に要因を分析すると以下の通りとなります。

【測量・測地系ソリューション事業及び計測機器販売事業】

- ①東日本大震災からの復旧・復興事業の進展に伴う測量事業の増加とともに、全国各地で進められる公共測量事業予算の執行により、測量CADシステムの販売が測量機器販売との相乗効果で計画通りに推移しました。
- ②平成26年4月に予定されるマイクロソフトWindowsXPのサポート終了に向けて、当社製品ユーザーに対して、PC機器環境変更と合わせて当社現行ソフトウェアへのアップグレードを提案する販売が増加しました。

【高精度三次元計測事業】

モバイルマッピングシステム(以下、MMS)導入後から培ってきたMMSより取得される高精度の3次元情報と、解析・表示技術に高い評価をいただいた結果、以下に記載の計測受託に結びつき、売上高・利益・受注件数ともに対前年実績を大幅に上回る結果となりました。

- ①公共インフラの老朽化における調査業務
- ②ITS分野における自動運転、安全運転支援技術の向上を図る為の高精度地図作成業務

2. MMSに関する活動の結果として、当第2四半期業績にどの程度寄与したか？

MMS計測に係る売上高は前年同期比141%増の186百万円となりました。また、製造コスト全般を抑制の効果から、売上総利益も前年同期比42%増の72百万円となりました。

一方、MMS販売に関しては、昨事業年度末に受注し、当事業年度に納品した案件の収益が当第2四半期業績に寄与しております。



補足説明資料⑤

3. 連結財務諸表に関して

(1) 連結貸借対照表において前連結会計年度との比較分析

①資産の部にて受取手形及び売掛金が、負債の部にて支払手形及び買掛金が減少している要因は？

前年度末に売上計上したMMS車両販売に係る売掛金を、当第2四半期累計期間で回収したため売掛金が減少いたしました。

またMMS車両の仕入れに係る買掛金を当第2四半期累計期間で決済したことにより、買掛金が減少いたしました。

②資産の部における商品及び製品が増加しているが、その要因は？

重点的に活動しているWindowsXPサポート終了に伴う、買い替え需要に対応すべく推奨するパソコンを絞り込み提案を行っております。その販売目的でのパソコンを新たに商品として計上しておりますが、その販売は計画通り推移しております。

その他では、測量機の積極的な営業活動を行っており、その在庫商品を計上したことにより増加しております。

③負債の部における固定負債項目で繰延税金負債が増加している要因は

当社では期末時点で保有している有価証券の評価を行っており、評価益が発生している有価証券については将来発生する売却益に係る税金を繰延税金負債として計上しております。

なお、当四半期連結会計期間末は前連結会計年度末と比べ、市場価格が上昇したため、保有有価証券評価益はさらに増加したことにより、繰延税金負債も増加しております。



補足説明資料⑥

(2) 連結損益計算書に関して

①販売費及び一般管理費項目のうち給料手当及び賞与が増加している要因は

当第2四半期における業績を鑑み、12月支給予定の冬季賞与をはじめとする一時金支給に係る費用を前年より増額計上したことによります。

②営業外費用項目において支払利息が減少している要因は？

当社が保有するリース資産の取得に係る支払利息相当額は、リース残高に合わせ減少しております。また、前第2四半期連結会計期間から新たに契約したリース物件が無いことから、前第2四半期連結会計期間と比べ支払利息全体が減少しております。

4. **WindowsXPのサポート終了が当社の販売活動にどのような影響を与えるのか**

現在、当社製品をご利用のお客様においても、WindowsXPをご利用されているケースが多々あります。WindowsXPのを供給元のマイクロソフトがサポートを終了することによりセキュリティ更新プログラム等の供給が終了するとともに周辺機器のサポートも終了となります。以上から、当社システムを利用する環境を安心且つ安定してご利用いただくためにも早急に新しいOSへの移行が必要となり、その提案活動を積極的に行っております。



補足説明資料⑦

5. 準天頂衛星「みちびき」を活用した取り組み状況は？

準天頂衛星「みちびき」を利用することにより、高度な位置情報利用の実現を目指した研究開発を進めております。MMSにより得られる座標点群データを利用し、車線情報等を含む高精度数値化モデルによる道路情報の生成することができ、従来のナビゲーション等では不可能であった、車線認識ナビゲーションの他、逆走防止、アップダウン道路情報からのエコ走行支援、及びカーブ情報からの走行支援機能等への実現に向けた研究開発を進めております。

また、本研究は平成25年度新あいち創造研究開発補助金を受け、名古屋大学と共同でITS業界での利用に向けた研究を進めております。

この他にも当社が主幹となり、一般財団法人衛星測位利用推進センター（SPAC）のご協力を得、準天頂衛星の初号機「みちびき」によるセンチメートル級 測位補強信号（LEX信号）を用いた利用実証試験を実施し、各方面から多くの参加を頂きました。

本分野では、当社が長年培ってきた高精度に位置情報を求める技術がその発展に寄与するものと考え、幅広い分野での研究活動を行っております。



補足説明資料⑧

6. 電子カルテシステムの見通しは？

これまでにご導入頂きましたお客様より頂戴した、実務のご利用を通じた様々な意見を製品に反映し、日本医師会開発のレセプトソフトであるORCAのサポート認定店を通じた販売活動を継続しております。その結果、これまでに導入した診療所等に追加のご注文もいただいております。一定の評価を得ているものと判断しております。

また、地域医療ネットワークの分野で、手書きの医療文書ツール、医療文書における電子署名技術提供など電子カルテに関連するシステムをセットにしたソリューションの提案を継続的に実施しております。

7. 「第10回ITS世界会議 2013 東京」出展の効果は

本会議全体におけるキーワードは「自動運転・運転支援技術」であり、その中で当社は、自動運転、安全運転支援に向けた研究・開発の場面で利活用いただける高精度地図作成、準天頂衛星みちびきの利用実証ツールを中心とした提案を行いました。

特にMMSの実車展示、MMSから生成される3次元道路情報、更には準天頂衛星みちびきの信号を利用した実証ツール「QZS Prove Tool EX2」は、ご来場いただきましたお客様に実際の自動運転、安全運転支援の実現に向けた研究における有効なツールとして非常に高い関心を集めました。

期間中だけでなく会議閉幕後においても、多くのお客様から高精度地図作成と利用実証等のご相談を受け、大変有意義な機会を得ることが出来ました。今後、更に自動運転と安全運転支援技術の向上を図るためには、位置精度を高める技術と高精度地図は必要不可欠な要素であると考えられ、当社では『位置を正確に測る』をキーワードにITS関連企業はじめ、各分野での研究・開発と地図作成に貢献すべく、更なる技術開発・技術提供を推進してまいります。

なお、本イベントへの参加目的と効果等に関しては、詳細は当社ホームページを参照ください。



補足説明資料⑨

8. 今期の業績見通しに関して

平成26年3月期における業績に関しては、平成25年10月21日に開示した「平成26年3月期業績予想の修正」の通りであります。

引き続き、WindowsXPサポート終了に伴うPC機器環境変更とあわせて当社現行ソフトウェアへのアップグレードに向けた提案を測量機器と組み合わせた形で行うことで、目標達成に向けた取り組みを行います。さらに、平成26年4月に実施されます消費税増税を受けた購買意欲の高まりも予想されます。

高精度三次元計測事業においては、公共インフラの老朽化に伴う調査事業案件の増加とともに、自動車関連、ITS関連の分野での利活用を目的とした「高精度三次元地図」の受託業務の受注は、前事業年度を大幅に上回るものと予想しております。

MMS車輛販売においては、昨年リリースされた小型化されたMMS-K320シリーズを含め、各種業界に幅広い提案を行っており、複数台の導入を目指しております。

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	百万円 1,800	百万円 50	百万円 42	百万円 30	円 銭 6.51
今回修正予想(B)	1,900	100	92	70	15.19
増減額(B-A)	100	50	50	40	
増減率(%)	5.6	100.0	119.0	133.3	
(ご参考)前期実績 (平成25年3月期)	1,899	66	58	39	8.56

(「平成26年3月期業績予想の修正」より抜粋)



補足説明資料⑩

9. 中期的な展開に関して

平成25年6月26日に開示しました中期経営計画でもご説明の通り、「2018年4月に実用準天頂衛星が24時間運用体制となる時代を、見据えた新次元の「新・深・真」なる測地系測量システム開発に邁進する。」を経営基本戦略とし、事業活動を進めてまいります。

一般的には、東日本大震災からの復旧・復興事業に加え、2020年に開催決定しました東京オリンピックに向け、様々なインフラ整備が今後活発に行われるとともに、自動車・ITSの分野では、自動運転、安全運転支援の実用化に向け、各社で積極的な研究開発が進むものと予想されます。また、2018年度に実用準天頂衛星時代を控え、様々な位置情報サービスの提供も期待されます。

このような環境のもと当社では、長年培ってきた「高精度演算、高精度位置情報解析ソフトウェア群」を従来の測量の分野に留まらず、様々な業種、業態へ幅広く提案していくことで事業拡大を目指してまいります。

10. 平成25年6月26日に発表した中期経営計画における当期のコミットの進捗状況は

売上高、販売管理費、利益の数値目標に向けた実績進捗は、平成25年10月21日に平成26年3月期業績予想の修正の開示を行った通り、計画を上回る状況で推移しております。その他事項に関してもコミットしました事項達成に向けて、全社挙げて取り組んで参ります。



本資料に記載された情報や業績予想等の将来見通しは、資料作成現時点において入手可能な情報及び当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成されております。今後、経営環境の変化等の事由により実際の業績や結果とは異なる可能性があります。

【本資料及び当社IRに関するお問い合わせ先】
アイサンテクノロジー株式会社 業務統括本部
TEL: (052) 950-7500
お問い合わせURL : <https://www.aisantec.co.jp/contact/>